

学位研究 第17号 平成15年3月（研究ノート・資料）  
[大学評価・学位授与機構 研究紀要]

学士学位取得者に対する「1年後・5年後調査」の分析（3）  
－専攻分野「保健衛生学」を中心に－

The Result of Follow-up Surveys to the Earners of a Bachelor Degree of NIAD-UE (Ⅲ) :  
Focusing on the degree earners majoring in “Health Science”

濱中 義隆  
HAMANAKA Yoshitaka

はじめに.....	157
1. 本報告の目的.....	157
2. 専攻分野「保健衛生学」における学位取得者の特徴.....	158
2. 1. 学位取得者数の推移.....	158
2. 2. 基礎資格ならびに基礎資格該当後の学修.....	159
3. 調査データの分析.....	161
3. 1. 申請時の就業状況および取得直後の進路.....	161
3. 2. 現在の就業状況.....	162
3. 3. 職場における学士の学位の評価.....	164
3. 4. 学位取得の意味.....	165
3. 5. 学位取得に対する満足度.....	169
おわりに.....	171
ABSTRACT .....	182

# 学士学位取得者に対する「1年後・5年後調査」の分析（3）

## －専攻分野「保健衛生学」を中心に－

濱中 義隆\*

### はじめに

大学評価・学位授与機構が行う、短期大学・高等専門学校卒業者等を対象にした学士の学位授与制度、いわゆる「新しい学士への途」は、平成13年度には1年間の学位取得者が2000人を超え、累積の学位取得者総数も1万人を突破した。制度の創設から10年が経過し、着実に実績を蓄えつつある。学位取得者の増加にともない学位審査研究部では、この制度を利用した学士の学位取得者はどのような人々であるのか、また取得した学位が社会的にどのように評価され、活用されているのかを把握すること等を目的として、平成11年度より学位取得者に対するフォローアップ調査（「1年後・5年後調査」）を毎年、継続的に実施しているところである。本稿では、平成13年度に実施した2回の調査の結果をまとめて報告する。

### 1. 本報告の目的

これまでも「1年後・5年後調査」については計2回<sup>1)</sup>、また、その前身にあたる「学位取得者に対するフォローアップ調査」（平成10年末に実施、平成10年4月期までに学位を取得した者全員を対象とした）についても<sup>2)</sup>、結果を『学位研究』で報告してきた。全般的な回答の傾向は短期間で急激に変化する性質のものではなく、実際に分析結果を見ても、これまで明らかにしてきた知見は比較的安定したものであるといっていよい。したがって調査の第一義的な目的である「学位授与業務の中で扱っている対象、すなわち申請者、学位授与者」について「きちんと把握する」（館 2001）という点では、すでにある程度までは達成されたといえるだろう。しかしながら、本機構における学位取得者（とりわけ調査に回答を寄せていただいた方）に対して、機構の学位の社会的評価等に関する情報をフィードバックすることも、調査の重要な役割であると考えており、単に毎年データを蓄積するのみならず、今後とも随時、結果を報告していく予定である。

ところで、過去の調査結果の報告において強調してきた点の一つは、専攻分野によって学位取得に対する社会的評価、あるいは取得者による主観的な意味づけや満足度が大きく異なっていることである。さらに言えば、専攻分野によって学位取得者の性別、年齢、職業などの社会的属性、学位取得に至るまでの学修履歴などもまた全く異なることが明らかになっているので、専攻分野を横断的に比較した場合、そこに大きな差異が存在していたとしても何ら不思議ではない。もちろん本機構にとっては、どの専攻分野において我々が運営する制度が積極的に評価・活用されているのか、もしくはいないのかを把握することが重要であることはいうまでも

---

\* 大学評価・学位授与機構 学位審査研究部 助教授

ない。しかし学位取得者にとっては、自分とは全く関係のない専攻分野との比較よりも、むしろ同一の専攻分野内部における回答の差異やその差異を規定する要因に関心が向けられるのではないと思われる。というわけで、今回の報告からは、専攻分野を限定してより詳細な分析を行うこととしたい。今回、取り上げる専攻分野は保健衛生学である。なお、他の専攻分野についての単純集計表についても付表として掲載するのであわせて参照していただきたい。

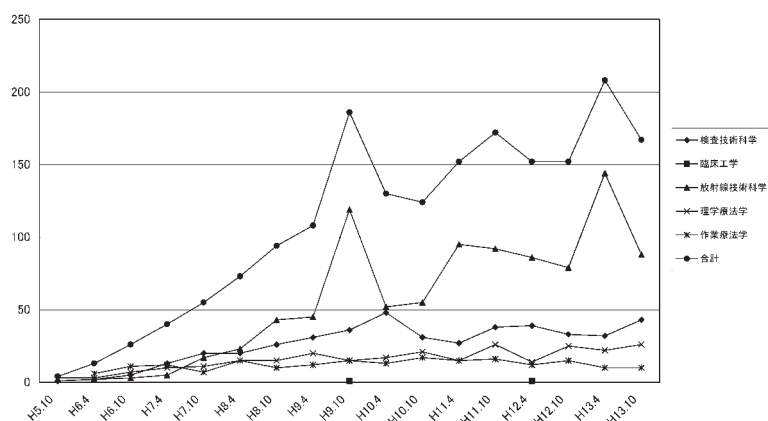
## 2. 専攻分野「保健衛生学」における学位取得者の特徴

調査データの分析を行う前に、専攻分野「保健衛生学」における学位取得者の特徴を提示しておきたい。当該分野における学位取得者がどのような人たちであるかを理解しておくことは、後の分析結果を解釈する際に有用であると考えからである。

### 2. 1. 学位取得者数の推移

平成13年度までに、「保健衛生学」においては1856人が、本制度を利用して学士の学位を取得している。これは学位取得者総数10084人の18.4%に相当し、専攻分野別では「工学」(3294人)に次いで大きなシェアを占めている。専攻分野「保健衛生学」には、検査技術科学、臨床工学、放射線技術科学、理学療法学、作業療法学の5つの専攻区分が設けられ、申請時にはいずれか一つの専攻区分を選択して申請がなされる。なお、平成16年度より専攻区分として新たに言語聴覚障害学が加わる予定である。図2-1は、専攻区分別に学位取得者数の推移を示したグラフである。申請時期によって変動が見られるものの全般的には学位取得者数は順調に増加してきたことが見てとれる。ただし図2-1より明らかなように、保健衛生学全体での取得者数の変動は放射線技術科学における取得者の変動に影響されている。近年では、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の各専攻区分における取得者数はむしろ安定的に推移しているといつてよい。学位取得者数の大きなピーク、すなわち平成9年10月期と平成13年4月期は、それぞれ以下のような理由によって申請者数が急増したものと推測される。平成9年10月期は、鈴鹿医療科学技術大学（現：鈴鹿医療科学大学）の科目等履修生社会人（特別）コースの初年度が修了したことにより、放射線技術科学に多数の申請者があったことによる<sup>3)</sup>。一方の平成13年4月

図2-1 学位取得者数の推移（保健衛生学）



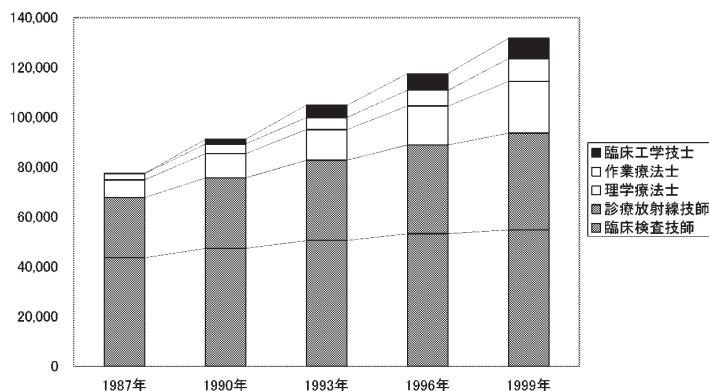
期については、専門学校修了者の申請が急増したことによると思われる。平成11年度より専門学校修了者のうち学校教育法に基づき大学に編入学することのできる者については、本機構における学位授与申請に必要な「基礎資格」が認められるようになったが、それから丸2年が経過

し申請に必要な単位数を修得した者が集中したのであろう。取得者の多い放射線技術科学においては、同期の学位取得者144名のうち専門学校修了者が83名を占めており、専門学校修了者が取得者増の要因であることを裏付けている。

ちなみに、本機構における保健衛生学の学位取得者の中では、放射線技術科学が約半数を占めている。その要因は、放射線技術科学においてこの制度を利用可能な者（対象者数）が多いからなのか、あるいはこの制度によって学位を取得しようとする者の割合（利用率）が高いからなのであろうか。厚生労働省の「病院報告」ならびに「医療施設調査」によれば、病院もしくは一般診療所における保健衛生学関係の各職種の従事者数は図2-2のようにになっている<sup>4)</sup>。各職種について、全ての者を

本機構の利用者層として想定しうるわけではないが、対象者数のおおよその目安にはなるであろう。図2-2によれば、従事者数では臨床検査技師が最も多く、診療放射線技師はそれに続いている。よって図2-2から判断する限り、放射線技術科学は単に対象者数が多いだけでなく、利用率も高いといっていよう。

図2-2 病院および一般診療所における従事者数



## 2. 2. 基礎資格ならびに基礎資格該当後の学修

本制度を利用して学士の学位を取得するためには、短期大学もしくは高等専門学校卒業、専門学校修了など一定のまとまった学習を修めていることが「基礎資格」として求められている。保健衛生学分野での学位取得者については、平成13年度現在、全体の約85%は3年制短期大学卒業を基礎資格としている。次いで多いのは3年制専門学校修了者（14%）で、他に2年制短大卒業、大学卒業・中退者が若干名存在している。ただし先述のように専門学校修了者に基礎資格が認められたのは平成11年度からであり、直近の平成13年度に限定すれば取得者の41%は3年制専門学校修了者で占められている。今後も暫くは専門学校修了者による学位取得者は実数・割合ともに増加していくものと思われる。

基礎資格該当後に修得することが必要な単位を機構では「積み上げ単位」と呼んでおり、基礎資格ごとに申請時に必要な「積み上げ単位」数が定められている。この積み上げ単位として申告できる単位には、①大学の科目等履修生として修得した単位、②大学・大学院の（正規）学生として修得した単位、③短期大学・高等専門学校の認定専攻科で修得した単位、などが含まれる。保健衛生学分野ではほぼ全員を占めている3年制短期大学卒業もしくは3年制専門学校修了者の場合、申請に必要な積み上げ単位数は（1年間以上にわたり）31単位以上である。つまり、基礎資格を得た機関における学修に加えて、ちょうど1年間分の追加的な学修によって学位授与申請が可能になる。それゆえ保健衛生学分野においては、2年間分の追加的な学修が必要な

2年制短期大学卒業や高等専門学校卒業を基礎資格とする者が大多数を占める専攻分野とは異なり、大学や短大・高専の専攻科に正規学生として在籍せずに「科目等履修生」として積み上げ単位を修得する者が多い点が基礎資格該当後の学修の特徴となっている<sup>5)</sup>。ただし申請者のほとんどがやはり3年制短期大学卒業者もしくは3年制専門学校修了者で占められている看護学では、約60%の者は3年制短期大学に設置された1年制専攻科において申請に必要な単位を修得しているので、追加的な学修期間の短さだけが大学の科目等履修生として積み上げ単位を修得する者が多いことの理由ではない。積み上げ単位の修得が可能な認定専攻科が保健衛生学分野ではほとんど設置されていないことも科目等履修生として単位を修得する者が多いことの大きな理由であると考えられる。

つづいて積み上げ単位を修得した機関についてももう少し詳しく確認しておこう。表2-1は専攻区分別に積み上げ単位の修得先を示したものである。いずれの専攻区分においても最も多いのは、放送大学教養学部のみで積み上げ単位を修得した者である。検査技術科学では96%は放送大学のみでの単位履修であり、放送大学もしくは大学通信教育部を除く通学制の大学で単位を履修した者は皆無に等しい。認定専攻科が1校も設置されていない理学療法学、作業療法学においても約90%は放送大学もしくは大学通信教育のみによる単位履修となっている。保健衛生学分野の中では、放送大学への集中度が他と比べて低い放射線技術科学でも放送大学のみで積み上げ単位を修得した者が57%を占めており、大学の昼間部・夜間部で単位を履修した者は25%程度にとどまっている。さらに言えば大学の昼間部・夜間部のみで単位を履修した者のうち95%は先に言及した鈴鹿医療科学大学において科目等履修生として単位を修得したものである。ちなみに、認定専攻科における学修を経ずに学位取得に至る者が保健衛生学に次いで多い看護学では、認定専攻科経由の学位取得者を除いて計算した場合でも、放送大学のみでの単位履修者は43%であり、大学の昼間部・夜間部で少なくとも1単位以上修得した者が54%に及んでいる（大学の昼間部・夜間部のみでの単位履修者も12%）。以上の結果が意味するのは、保健衛生学分野では科目等履修生制度を利用して単位を修得できる機関（大学）がきわめて限られていることである。こうした単位修得が可能な機関の偏りや単位修得機関の差異が、学位取得者の意識にどのような影響を及ぼしているかについては、後に詳しく検討することにしたい。

表2-1 積み上げ単位の修得機関（%）

	検査術 技科学	臨床工学	放 射 線 技術科学	理 学 療法学	作 業 療法学	合 計
大学の昼間部・夜間部	0.4	-	24.9	4.9	5.6	14.1
放送大学	95.7	-	57.0	86.0	86.2	73.4
大学の通信教育	0.7	-	0.2	5.3	1.5	1.2
大学の昼間部・夜間部+放送大学	0.9	-	2.0	1.5	2.6	1.7
大学通信教育+放送大学	1.3	-	2.4	2.3	4.1	2.3
大学通信教育+大学の昼間部・夜間部	0.2	-	-	-	-	0.1
認定専攻科	0.7	100.0	13.5	-	-	7.2
合計	100	100	100	100	100	100
(N)	(445)	(2)	(948)	(265)	(196)	(1856)

### 3. 調査データの分析

学位取得者の特徴を確認したところで、平成13年度に実施した「1年後・5年後調査」のデータを利用した分析の結果を報告することにしよう。専攻分野保健衛生学に限定すると平成13年度実施分の調査対象者は、5月に実施した調査では、平成11年10月期申請者175名（1年後調査）、平成7年10月期申請者55名（5年後調査）、また11月に実施した調査では、平成12年4月期申請者152名（1年後調査）、平成8年4月期申請者73名（5年後調査）である。表3-1は、このうち回答が得られた人数について専攻区分別、申請時期別にまとめたものである。表3-1にみられるように、専攻区分臨床工学では回答者は1名のみであるため、以下の分析では便宜上、検査技術科学の区分に含むことにする。同様に、理学療法学、作業療法学についてもそれぞれの回答者数が少ないため、「理学・作業療法学」として一つの区分として扱うことにした。

表3-1 調査回収数（保健衛生学のみ）

		専攻区分					申請時期 別回収率
		検査技術 科学	臨床工学	放射線技 術科学	理学療法 学	作業療法 学	
5年後調査	平成 7年10月期	10		10	4	4	50.9 %
	平成 8年 4月期	10		10	7	5	43.8 %
1年後調査	平成11年10月期	29		49	21	9	61.7 %
	平成12年 4月期	27	1	49	7	7	59.9 %
合計		76	1	118	39	25	56.9 %

#### 3. 1. 申請時の就業状況および取得直後の進路

これまでの調査結果報告からも保健衛生学分野では学位授与申請時に既にフルタイムで職業に就いている者が多いことが判明している。表3-2および表3-3は、それぞれ申請時の就業状況と、学位取得直後の進路について専攻区分別に示したものである。今回の調査でも約90%が申請時にフルタイムで職業に就いており、また約80%は学位取得直後の進路を「取得前とかわらない」としている。専攻科在学中の見込申請者は放射線技術科学に若干名存在するだけなので、専攻区分による違いはほとんどない。ただし、表3-3の取得直後の進路については次のような点を考慮する必要がある。調査票では「複数に該当する方は主なもの1つを選んでください」という形式で尋ねているので、「大学院に進学した」あるいは「資格試験や大学院などの受験準備をしていた」と回答した者の中には、申請時の職業に就いたままの者も含まれることになる。現在の就業状況ならびに職業を尋ねた別の質問項目において、「現在の勤務先に勤めはじめた時期」を調べているので、その回答とあわせて結果を検討してみると、これらの者の多くは学位授与申請の以前から現在の勤務先で職業に従事していることがわかった。したがって、学位取得の前後を通じて同じ勤務先に従事している者の割合は、実質的には90%近くに及ぶことになるであろう。

表3-2 申請時の職業 (%)

	検査*	放射線	理・作	合計
フルタイムで仕事	87.0	91.5	93.8	90.7
パートやアルバイト	6.5	0.0	3.1	2.7
短大専攻科の学生	-	5.1	-	2.3
主婦として家事に従事	-	-	1.6	0.4
資格試験などの受験準備	1.3	0.8	-	0.8
仕事を探していた	2.6	2.5	1.6	2.3
その他	2.6	-	-	0.8
合計	100	100	100	100
(N)	(77)	(118)	(64)	(259)

\*臨床工学を含む（以下同様）

表3-3 学位取得直後の進路 (%)

	検査	放射線	理・作	合計
取得前と変わらない	83.1	83.1	79.7	82.2
転職・再就職した	2.6	3.4	1.6	2.7
はじめて就職した	-	5.1	-	2.3
大学院に進学	2.6	2.5	6.3	3.5
資格試験などの受験準備	6.5	3.4	10.9	6.2
仕事を探していた	1.3	0.8	1.6	1.2
その他	3.9	1.7	-	1.9
合計	100	100	100	100
(N)	(77)	(118)	(64)	(259)

### 3. 2. 現在の就業状況

調査時点が、学位取得から1年後もしくは5年後と比較的短期間であるため、申請時および取得直後の就業状況と、現在の就業状況には変化はない。表3-4に示すように、いずれの専攻区分においてもほぼ全員が、パート・アルバイトを含めて何らかの職業に従事している。

以下では、勤務先の業種、規模、具体的な職種について順次、見ていくことにする。まず、勤務先の業種については表3-5のとおりである。

保健衛生学の各専攻区分はいずれも特定の医療関連の職業資格と結びついているので、病院・診療所などに勤務する者が最も多いのは当然である。むしろ注目すべきは病院・診療所以外に勤務している者の割合である。検査技術科学、理学・作業療法学ではそれぞれ約20%の者が、学校、大学、研究所などに勤務している。また、検査技術科学では民間企業（製薬会社など）に勤務する者も1割弱に及ぶ。一方、放射線技術科学では95%の者は病院・診療所などに勤務しており、学校、大学などに勤務する者の割合は相対的に小さい。

勤務先の規模については（表3-6）、官公庁・地方自治体が設置する機関に勤務する者の割合

表3-4 現在の就業状況 (%)

	検査	放射線	理・作	合計
仕事をしている	93.4	98.3	95.3	95.3
大学院に在学中	2.6	0.9	3.1	1.9
主婦として家事に従事	3.9	0.9	1.6	1.6
資格試験などの受験準備	-	-	-	-
仕事を探している	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合計	100	100	100	100
(N)	(76)	(117)	(64)	(257)

表3-5 勤務先の業種 (%)

	検査	放射線	理・作	合計
製造	8.3	0.9	-	1.6
学校、大学、研究所など	20.8	3.5	21.3	14.2
病院、診療所など	69.4	94.7	73.8	82.2
その他のサービス	1.4	-	3.3	1.2
公務(学校、病院は除く)	-	0.9	1.6	0.8
合計	100	100	100	100
(N)	(72)	(114)	(61)	(247)

表3-6 勤務先の規模 (%)

	検査	放射線	理・作	合計
29人以下	5.6	3.5	8.3	5.3
30～99人	2.8	2.7	15.0	5.7
100～499人	18.3	23.0	36.7	25.0
500～999人	4.2	9.7	-	5.7
1000人以上	21.1	12.4	8.3	13.9
官公庁、地方自治体	47.9	48.7	31.7	44.3
合計	100	100	100	100
(N)	(71)	(113)	(60)	(244)



が高いことが目立つ。もっとも、表3-6に示した数値からだけでは機構における学位取得者が官公庁・地方自治体が発する機関に勤務する者に極端に偏っていると判断することはできない。なぜなら、そもそもこうした医療関連の職業に従事する者が、国立病院や公立病院などに多く勤務している可能性があるからである。そこで、再び厚生労働省の病院報告ならびに医療施設調査（平成11年度）を用いて、それぞれ

の医療関連職種のうち、国あるいは地方自治体等が発する病院・診療所に勤務している者の割合との比較を試みた。ただしここでも、保健衛生学分野における全ての学位取得者が病院・診療所に勤務しているわけではないこと、反対に病院・診療所において医療関連職業に従事する者の全てが機構における学位取得の対象者となりうるわけではないことから、あくまで便宜的な比較であることは断っておきたい。図3-1は、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士のそれぞれについて、勤務先の病院・診療所の設置者の比率を示したものである。それぞれの職種について国公立の病院・診療所に勤務する者の割合は順番に、38.4％、34.2％、25.9％、24.0％となっている。理学療法士、作業療法士は、他の2つの職種と比較して国公立の機関に従事する者の割合は10％ほど低く、機構における学位取得者についてもこの構成比の差異が反映されている。表3-6及び図3-1で挙げた数値の比較から判断する限りにおいては、いずれの専攻区分においても、機構における学位取得者は、国公立の機関に従事する者にやや偏る傾向にあるといっていよう。

勤務先での主な仕事（職種）も当然のことながら「保健・医療職」とする者が最も多い（表3-7）。ここでも重要なのは、保健医療職以外の職種に従事する者の割合である。特に教員あるいは研究職と回答した者の割合に注目したい。ただし、ここでの教員、研究職には大学や専門学校における教員、国公立もしくは民間の研究機関における研究員の他に、大学等における助手や研究員等も含まれるので、教員と研究職を完全に区別することは難しい。そこで双方の比率を合わせた数値に言及する。検査技術科学では約20％の者が、また理学・作業療法学では約15％の者が教員もしくは研究職に従事している。これに対して放射線技術科学では教員もしくは研究職に従事する者の割合は6％にとどまる。機構における学位取得者に限定しない場合に、それぞれの分野においてどれくらいの割合の人が教員・研究職に従事しているかは不明であるため厳密なことはいえないが、教員・研究職以外のいわば一般の保健医療職従事者に、本機構の学位授与制度を利用して学士の学位を取得することが最も浸透している専攻区分が放射線技術

図3-1 医療関連職種従事者の勤務先の設置者

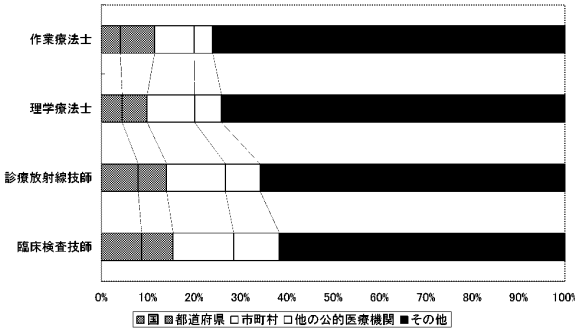


表3-7 主な仕事（職種）（％）

	検査	放射線	理・作	合計
事務職	1.4	0.9	-	0.8
技術職	7.0	4.3	-	4.0
教員，保母	7.0	1.7	14.8	6.5
保健・医療職	70.4	91.3	83.6	83.4
研究職	12.7	1.7	1.6	4.9
その他	1.4	-	-	0.4
合計	100	100	100	100
(N)	(71)	(115)	(61)	(247)

科学であることが、以上の結果からは推測される。放射線技術科学における「利用率」が相対的に高いのではないかということを先に示したが、ここでの結果もその推論を裏付けるものであるといえるだろう。

### 3. 3. 職場における学士の学位の評価

「1年後・5年後調査」では、本機構で取得した学士の学位が、学位取得者の職場において、他の学歴（大卒、短大・高専・専門学校卒）と比較してどのように扱われているかを、採用時の条件、給料、昇進・将来性、仕事の内容・責任のそれぞれについて尋ねている<sup>6)</sup>。実はこれまでの調査結果から、保健衛生学分野においては「大卒と同等」とする者が少なく、「短大・高専・専門学校卒」と同等とする者が最も多いことが明らかになっている。今回の調査においてもいずれの項目についても大卒と同等であるとした者は約20%である。反対に短大・高専・専門学校と同等であるとした者が40～50%に及び、この傾向は過去の調査結果と変わらない。確かに「大卒と同等」とする者は少数派であるが、しかしここではあえて、5人に1人は大卒と同等としている事実に着目したい。保健衛生学分野において「大卒と同等」とした人たちがどのような人たちであるかを明らかにすることは、それなりに意味があると考えからである。

ところで、調査票においては比較の対象となる他の学歴とともに「比較の対象がとなる人がいない」という選択肢が設けてあり、これを選択した者はいずれの項目についても25～30%存在している。大卒と同等か否かを規定する要因を探るためには比較の対象がいないと回答した者を単純に分析から除外してしまうことも一案ではあるが、25～30%という無視できない割合の人を分析から排除してしまうとサンプル抽出に歪みを生じる可能性は否定できない。この問題を回避するためにここでは、多項ロジット分析とよばれる手法を用いて、比較の対象となる人がいないと回答したのはどのような人たちであるのかまでを含めて分析することにした。多項ロジット分析とは、3つ以上のカテゴリーからなる質的な従属変数に対する回帰モデルであり、独立変数（群）の水準によってどのカテゴリーが選択されやすいかを予測するものである。一般的には、基準となる1つのカテゴリーに対して、その他のカテゴリーが選択される確率が、独立変数1単位の変化によって、他の変数の影響を一定にした場合にどの程度変動するのか、つまり各独立変数の独自の影響力（パラメータ）が推測される<sup>7)</sup>。

ここでの分析に即していえば、「短大・高専・専門学校卒と同等」を基準のカテゴリーとして、他のカテゴリー、すなわち「大卒と同等」、「比較の対象となる人がいない」が各独立変数（の変化）によってどれくらい選ばれやすくなるのかを推定していると考えればよい。ここで統計的に有意な影響を及ぼす要因（独立変数）を探ることによって、どのような人たちが「大卒と同等」と回答しているかを明らかにすることができるのである。

分析に用いた独立変数は以下のとおりである。

- |         |  |
|---------|--|
| ①基礎資格   | 「専門学校修了者」=1,「短期大学卒業者」=0とするダミー変数                              |
| ②性別     | 「男性」=1,「女性」=0とするダミー変数  |
| ③勤務先の規模 | 「官公庁, 地方自治体」を基準にした「100人未満」,「100～999人」,<br>「1000人以上」の3つのダミー変数 |
| ④職種     | 「教員もしくは研究職」=1,「その他の職業」=0とするダミー変数                             |
| ⑤就職, 転職 | 学位取得後に「就職・転職した」=1,「転職していない」=0とする                             |

紙幅の都合上、本稿では「給料」のみをとりあげ分析結果を表3-8に示した。他の項目についても基本的な傾向は変わらない。はじめに「大卒と同等」とした人はどのような人たちであるのかからみていこう。ここで統計的に有意な影響を及ぼしているのは職種、勤務先の規模、就職・転職である。具体的には、他の条件を一定にした場合、「教員もしくは研究職」として従事している者は他の職業に従事する者より大卒と同等であるとする確率が高く、また従業員数が「1000人以上」の機関に勤務する者は「官公庁・地方自治体」の設置する機関に勤務する者と比べて大卒同等とする確率が低い。いいかえれば、給料が大卒と同等であるとしているのは「教員もしくは研究職」であり、また従業員数が1000人以上の大規模な機関（具体的な勤務先名をみると私立大学の附属病院が多い）では大卒同等とした者が少ないということである。教員・研究職に従事する者は前節でみたように少数ではあるけれども、その仕事の特性から「大卒と同等」とする者が多いようである。

また、認定専攻科を修了して新たに就職した場合、あるいは学位取得後に転職した場合には、大卒として扱われる確率が有意に高くなっている。おそらく新たな勤務先に入職する場合には、機構で取得した学位により、大卒学歴の保有者として扱われるケースが多くなるためであろう。なお年齢、性別、学歴（短大卒もしくは専門学校卒）などの社会的属性は、職業資格の取得が明確な資格要件となっている職業に従事している者が大半であることもあってか、有意な影響を及ぼしていない。

一方、「比較の対象がない」に対しては職種と勤務先の規模のみが影響を及ぼしている。もっとも比較の対象となる人がいないとした人についてはこれ以上深く立ち入っても意味はない。先にも述べたように、特定の社会的属性を有する者を分析対象から除外することにより目的となる推計結果に歪みが生じることを避けるために導入したカテゴリであり、ここでは大卒と同等とする人のみに着目すれば十分である。

表3-8 職場における学位に対する評価、「給料」（多項ロジット分析）

		大卒と同等		比較の対象がない	
		B	exp(B)	B	exp(B)
申請時の年齢		-.019	.981	.012	1.012
性別	男性	-.090	.914	-.248	.781
	女性	-	-	-	-
基礎資格	3年制専門学校	-.617	.539	-.045	.956
	3年制短期大学	-	-	-	-
勤務先の規模	100人未満	-.829	.437	.990+	2.692
	100～999人	-.582	.559	-.713+	.490
	1000人以上	-1.417 *	.242	-.560	.571
	官公庁など	-	-	-	-
職種	教員・研究職	1.588 *	4.893	1.181 *	.044
	保健医療職ほか	-	-	-	-
就職・転職	した	1.275 *	3.578	.647	.203
	しない	-	-	-	-
切片		.086		-.974	

従属変数の基準カテゴリーは、「短大・高専・専門学校卒と同等」

Model Chi-square=41.648, DF=16, p=.000

\*: p < .05, +: p < .10

### 3. 4. 学位取得の意味

機構の学位授与制度を利用して学位を取得したことに対して、取得者はどのような意味を見

出しているのかについて、本調査では9つの項目にわたって尋ねている。ここでも過去の調査結果から結論を先に述べてしまえば、学位取得者が最も肯定的に評価しているのは、自分自身への自信がついた、その後の人生の励みになったなど主観的な自己評価に関する項目である。反対に、最も肯定的な評価が得られていないのは、職場における学士の学位に対する評価の節の結果からも想像されるように、まわりの人から「大卒」として扱われるようになった、という項目である。

今回、ここで注目したいのは学位取得に至るまでのプロセス、すなわち積み上げ単位の修得や学修成果の作成を通じて、どのような知識や能力を獲得したと考えているのかに関する項目である。具体的には、「幅広い教養が得られた」、「仕事に必要な専門的知識が得られた」、「基礎的知識・学力が身についた」の3項目について、それぞれおおいに当てはまるからまったく当てはまらないまでの4段階で尋ねている。ただし、「まったく当てはまらない」と回答した人はいずれの項目についても少数であったので、「まったく当てはまらない」と「あまり当てはまらない」は、両者をまとめて「当てはまらない」と再コードして集計を行った結果を提示する。

表3-9～3-11は、上記の3項目について専攻区分別に示したものである。それぞれのクロス集計表についてカイ2乗検定を行った結果、統計的に有意な差が確認されるのは、「仕事に必要な専門的知識が得られた」のみであった。この項目に当てはまらないとする者の割合は3つの専攻区分の間でそれほど大きな差はみられないが、おおいに当てはまるとした者は、検査技術科学では6.5%であるのに対して、放射線技術科学では19.8%，理学作業療法学では23.4%と明瞭な差異を確認できる。いずれの専攻区分も職業上の専門的知識と密接に結びついた分野であるから、知識や能力に対する志向性が大きく異なっているとは考えにくい。むしろ知識や能力の獲得に対する回答は、学位取得までにどのような学修を行ったかに影響されたと考えた方が妥当であろう。つまり、専攻区分によって学修プロセスが異なっているために、専攻区分間での差異として現れたのではないかと考えるのである。

上記の仮説を検証するためには、各取得者の単位の修得状況、すなわちどのような科目（専門・関連・専攻外科目）を何単位ずつ修得しているのかによって回答傾向がどのように異なるのかを明らかにする必要がある。しかし残念な

表3-9 学位取得の意味「幅広い教養が得られた」(%)

	検査	放射線	理・作	合計
おおいに当てはまる	24.7	31.9	28.1	28.8
少し当てはまる	64.9	55.2	50.0	56.8
当てはまらない	10.4	12.9	21.9	14.4
合計	100	100	100	100
(N)	(77)	(116)	(64)	(257)

Chi-square=5.841, DF=4, p=.221

表3-10 学位取得の意味「仕事に必要な専門的な知識が得られた」(%)

	検査	放射線	理・作	合計
おおいに当てはまる	6.5	19.8	23.4	16.7
少し当てはまる	62.3	43.1	45.3	49.4
当てはまらない	31.2	37.1	31.3	33.9
合計	100	100	100	100
(N)	(77)	(116)	(64)	(257)

Chi-square=11.610, DF=4, p=.020

表3-11 学位取得の意味「基礎的知識・学力が身についた」(%)

	検査	放射線	理・作	合計
おおいに当てはまる	18.2	18.3	15.6	17.6
少し当てはまる	57.1	62.6	53.1	58.6
当てはまらない	24.7	19.1	31.3	23.8
合計	100	100	100	100
(N)	(77)	(116)	(64)	(257)

Chi-square=3.424, DF=4, p=.490

がら各個人についての修得科目に関するデータは保持していない。そこで、以下のような方法を用いて推論を試みた。すでに「1.専攻分野『保健衛生学』における学位取得者の特徴」の節で確認したように、保健衛生学では積み上げ単位の修得機関は特定の大学に偏っている。したがって各大学でどのような科目の単位が修得されているのか、その内訳がわかれば各専攻区分における単位の修得状況の概況を把握することができる。その上で、積み上げ単位の修得機関によって「仕事に必要な専門的知識が得られた」他に対する回答傾向が異なるか否かを検証すれば、学位取得までの学修プロセスと、獲得された知識・能力の間の関係を間接的に明らかにすることができるのである。

学位審査研究部では平成10～11年にかけて、学位授与申請に必要な全ての積み上げ単位を大学の科目等履修生として修得した者について、単位の履修状況を詳細に調査した（「履修パターン調査」<sup>8)</sup>）。データはやや古くなっているが、傾向はおそらくほとんど変化していないと思われるので、この履修パターン調査のデータを利用すれば各大学でどのような科目がどれくらい履修されているのかを把握することができる。表3-12は、各専攻区分について積み上げ単位を修得した大学別に、専門科目、関連科目、専攻外科目がそれぞれどのような割合で修得されているのかを示したものである。既に確認したように、放射線技術科学以外の専攻区分では、ほとんどの取得者は放送大学のみでの単位履修であるため、検査技術科学、理学・作業療法学には放送大学だけを表示し大学の昼間部・夜間部は省略した。表3-12より、同じ放送大学における単位履修であっても、理学・作業療法学では総履修単位数のうち専門科目の比率が50.8%であるのに対して、検査技術科学では39.9%、さらに放射線技術科学では17.0%しかないことがわかる。また、放射線技術科学で「大学の昼間部・夜間部」で積み上げ単位を履修した者の場合は、専門科目が64%を占め、そのうち専門科目A群（放射線技術科学のコアとなる科目）に分類される科目が51.9%を占めている。ちなみに放送大学における専門A群科目の履修は皆無であった。このように専攻区分、（放射線技術科学に限定されるが）積み上げ単位の修得先によって、履修される科目のタイプが大きく異なっていることは明らかである。

表3-12 積み上げ単位修得機関による履修パターンの違い（%）

専攻区分	単位の修得先	専門（うちA群）	関連	専攻外
検査	放送大学	39.9 (1.3)	25.2	34.8
放射線	放送大学	17.0 (0.0)	45.1	37.9
	大学の昼間部・夜間部	64.0	51.9	12.4
理・作	放送大学	50.8 (0.3)	31.5	17.7

一方、表3-13～3-15は、積み上げ単位の修得機関が放送大学に限定されていない放射線技術科学のみを対象にして、単位修得機関と学位取得による獲得した知識・能力との関係をみたものである。なおここでは、積み上げ単位を認定専攻科で修得した者も「大学の昼間部・夜間部」に含めている。認定専攻科の学生もまた専門科目を多数履修しているからである。表3-14から明らかなように、「仕事に必要な専門的知識が得られた」に対する回答は、積み上げ単位の修得機関によって大きく異なる。「大学の昼間部・夜間部」（認定専攻科を含む）で単位を修得した者は37.1%がおおいに当てはまるとしているのに対して、放送大学のみで単位を修得した者ではおおいに当てはまるとした者は12.3%、反対にまったく当てはまらないとした者が43.2%に及ぶ。

以上の結果から、表3-10に示した「仕事に必要な専門的知識が得られた」に対する専攻区分による回答の差異は、積み上げ単位として修得した科目の違いによってもたらされたものだと推測することが可能であろう。つまり、積み上げ単位として専門科目を多く履修しているほど「仕事に必要な専門知識が得られた」とする傾向にあるのである。

もっとも、職業上の知識・技術と密接に結びついた専攻分野において、以上のような関連が認められることは当然のことといえるかも知れない。ここでさらに注目したいのは、表3-13、表3-15に示したように「幅広い教養が得られた」、「基礎的知識・学力が身についた」についても、放送大学での単位履修者よりも「大学の昼間部・夜間部」での単位履修者の方がおおいに当てはまるとしている割合が高いことである。「基礎的知識・学力が身についた」については統計的に有意な関連が認められる。この結果はどのように解釈することが可能であろうか。まず想定しうるのは、放送大学・大学通信教育

部の遠隔教育という授業形態に由来する問題である。対面形式の授業の方が、知識・能力の獲得に関して達成感を得やすいということがあるのかも知れない。とはいえ、保健衛生学分野のようにフルタイムで職業に就いている者の高等教育に対する需要が高い場合には、遠隔教育はそれを供給しうる重要な手段である。仮に授業形態の違いが取得者の知識・能力の獲得に関する達成感が相対的に低いことの理由であるとするならば、教材、授業の内容等を工夫することによって対面形式の授業との差が埋まることが望まれる。いま一つ想定しうる要因は、専門教育すなわち専門的知識の獲得を通じて「幅広い教養」や「基礎的知識・学力」の醸成が行われている可能性である。職業的な専門知識への志向性が強い学問分野においては、教養や基礎的知識・学力の獲得そのものが学修の目的とされるのではなく、専門科目の履修を通じてこれらの知識・能力が要求されるのではないか。だとするならば、専門的知識の獲得と、教養や基礎的知識・学力の獲得が同時におこりうることになるであろう。この場合、積み上げ単位として専門科目をどれだけ履修したかが重要な意味を持つことになる。

表3-13 学位取得の意味「幅広い教養が得られた」(%)

	大学の昼間部・夜間部 (認定専攻科含む)		放送大学 (大学通信教育含む)
おおいに当てはまる	42.9	>	27.2
まあ当てはまる	45.7	<	59.3
当てはまらない	11.4		13.6
合計	100		100
(N)	(35)		(81)

Chi-square=2.788, DF=2, p=.248

表3-14 学位取得の意味「仕事に必要な専門的知識が得られた」(%)

	大学の昼間部・夜間部 (認定専攻科含む)		放送大学 (大学通信教育含む)
おおいに当てはまる	37.1	>	12.3
まあ当てはまる	40.0		44.4
当てはまらない	22.9	<	43.2
合計	100		100
(N)	(35)		(81)

Chi-square=10.422, DF=2, p=.005

表3-15 学位取得の意味「基礎的知識・学力が身についた」(%)

	大学の昼間部・夜間部 (認定専攻科含む)		放送大学 (大学通信教育含む)
おおいに当てはまる	31.4	>	12.5
まあ当てはまる	48.6	<	68.8
当てはまらない	20.0		18.8
合計	100		100
(N)	(35)		(80)

Chi-square=6.381, DF=2, p=.041

いずれにしても、ここでの分析は放射線技術科学のみを対象としたものであり、また放送大学以外での積み上げ単位履修者の数はそれほど多くはないことに加えて、ある特定の機関での履修に限定されていることから断定的なことはいえない。それでもなお、一つ明らかなことは保健衛生学分野では積み上げ単位、とりわけ各専攻区分の中心的科目となる専門科目の単位の履修が可能な機関がきわめて限られている点である。単位の累積加算による学位授与を根幹とする本機構の学位授与制度にとっては、より多くの機関で科目等履修制度を利用した学修が可能な環境が整備されることが望ましい。これまで示してきたように、積み上げ単位の修得機関や履修した科目の内容が、学位取得者の学位取得に対する意味付けに影響を及ぼしているとするならば、なおさらのことである。

### 3. 5. 学位取得に対する満足度

本調査では学位取得に対する現時点での満足度を10点満点で回答してもらっている。単純に保健衛生学分野における満足度の平均点を算出すると7.5点となり、平均的な満足度は10点満点のスケールではやや高い方に寄っている。そこで表3-16では、10点、8～9点、6～7点、5点以下の4段階に再コードした結果を提示した。専攻区分別では、作業・理学療法学で10点満点とする者の割合がやや高いことがわかるが、全体として専攻区分間で顕著な差異があるとはいえない(カイ2乗検定、 $p=.369$ )。

ところで、表3-16に示したように満足度を4段階のスケールにまとめると平均点の7.5を中心にして両側にほぼ均等に分散した分布になることがわかる。この分散がいかなる要因によって規定されているのかについて、ここでは重回帰分析を用いて検討してみた。

満足度を規定する要因としてここで検討したのは、性別(男性ダミー)、年齢、基礎資格(専門学校ダミー)、積み上げ単位の修得機関(「通学制大学」ダミー、認定専攻科ダミー)、学位取得後の経過期間(5年後調査ダミー)、大学院進学の有無、大学卒業経験の有無、周囲から「大卒」として扱われるようになったか否か、である。「通学制大学」ダミーとは、放送大学・大学通信教育部以外で単位を修得した者を1とするダミー変数である。大学卒業経験の有無は、本機構で学士を取得する以前に大学を卒業した者を1としたダミー変数である。大学に正規学生として在籍して修得した単位を積み上げ単位として申告することができるので、一度、大学を卒業した後に、その単位を利用して学位授与申請をする者も存在する。ここでは約6%の回答者がこれに該当する。また周囲から「大卒」として扱われるようになったか否かについては、該当する質問項目について「おおいに当てはまる」、「まあ当てはまる」とした者を1としたダミー変数を作成した。

結果は表3-17に示すとおりである。属性的要因では、男性の方が女性より満足度は低く、また年齢は無関係であることがわかる。学修履歴に関する要因をみると、基礎資格による満足度の差異は見られないが、積み上げ単位の修得機関では認定専攻科における単位取得者の満足度が有意に高い。ところが、放送大学・大学通信教育部以外で単位を修得した者の満足度が高い

表3-16 学位取得に対する全般的な満足度(%)

	検査	放射線	理・作	合計
5点以下	11.7	16.1	9.5	13.2
6～7点	32.5	34.7	36.5	34.5
8～9点	39.0	30.5	25.4	31.8
10点	16.9	18.6	28.6	20.5
合計	100	100	100	100
(N)	(77)	(118)	(63)	(258)

Chi-square=6.504, DF=6,  $p=.369$

わけではない。前節で指摘したように様々な知識・能力の獲得に対しては達成感が高いにもかかわらず、それが全般的な満足度の高さには結びついていないのである。

大学院進学の有無、大学卒業経験の有無も満足度に有意な影響を及ぼしている。機構で学士を取得した後に大学院へ進学した者は約1割程度であるが、学士の取得が大学院への入学資格要件となるため、取得した学位が直接的に活用されたことになるかれらの満足度が相対的に高いことは当然であろう。機構の学士取得前に大学を卒業した者の満足度が高い理由を想像することは困難である。強いて挙げるとするならば、1年分の学修を新たに積み増して学位を取得した他の取得者よりも、大学での学習量が多いことくらいであろうか。

「周囲から『大卒』として扱われるようになった」という質問に対して、当てはまるとした者の満足度が有意に高くないことは、意外な結果のようにも思われる。これは以下のような理由による。表3-18は満足度と「周囲から『大卒』として扱われるようになった」のクロス集計表である。たしかに、「おおいに当てはまる」とした人では10点とする割合が高く、反対に「まったく当てはまらない」とした人で5点以下の者が多い。したがって両者の間に関連がないわけではない<sup>9)</sup>。ところが、「少し当てはまる」と「あまり当てはまらない」の間では、むしろ「あまり当てはまらない」とした者に満足度の高い者が多い。このように、全般的な満足度と学位取得に対する周囲からの評価は必ずしも直線的な関係になっていないのである。学位取得に対する満足度は、大学院への進学や「周囲から『大卒』として扱われる」ようになるなど、学位取得の直接的効用に影響されていることは事実であるが、それだけで規定されているわけではない。おそらく満足度は、学位取得の目的と、その目的の達成度によって決定されるのであろうから、今後の調査の分析では取得動機に関する変数を加えることによりさらに検討を進めることとしたい。

表3-17 満足度の規定要因（重回帰分析）

		偏回帰係数
申請時年齢		.003
性別	男性	-.298 *
	女性	-
基礎資格	専門学校	-.150
	短期大学	-
積み上げ単位の修得機関	認定専攻科	.686 *
	通学制大学	-.159
	放送大学	-
学位取得からの年数	5年後調査	-.197
	1年後調査	-
大学院進学	あり	.610 **
	なし	-
大学卒業	あり	.613 *
	なし	-
「大卒として扱われるようになった」	当てはまる	.189
	当てはまらない	-
(切片)		.255 **
R <sup>2</sup>		.105 **

表3-18 満足度と学位取得に対する周囲からの評価のクロス集計（％）

	まわりの人から、「大卒」として扱われるようになった			
	おおいに当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない
5点以下		7.1	10.4	22.2
6～7点	8.3	44.6	30.2	36.7
8～9点	25.0	33.9	35.4	27.8
10点	66.7	14.3	24.0	13.3
合計	100	100	100	100
(N)	(12)	(56)	(96)	(90)

Chi-square=31.544, DF=9, p=.000



## おわりに

本稿では、学位審査研究部が継続的に実施している、学位取得者に対する1年後・5年後調査の新たな分析の試みとして、専攻分野を限定した分析を行うこととし、その第一回目の対象として保健衛生学を取りあげた。

専攻分野「保健衛生学」では、他の多くの専攻分野とは異なり、短大・高専の認定専攻科がほとんど設置されていないにもかかわらず、いったん職業に就いた者たちの学位取得に対する需要に支えられて、制度の発足以来、順調に取得者が拡大してきた<sup>10)</sup>。単位の累積加算によって学士の学位が取得可能な本制度の特徴が、最も活用されている専攻分野であるといつてよい。しかしながら、本稿の分析によれば、科目等履修生として積み上げ単位の修得が可能な機関がきわめて限られていること、また学位を取得しても「大卒」として評価されるケースが他の専攻分野に比べても少ないことなど問題点がないわけではない。調査票の自由記述欄にしばしば見られたのは、当該分野における学位取得の主要な動機の一つが、各医療関連職種の養成課程が、これまで主流であった3年制の課程から四年制大学へ移行しつつある、ということである。実際、これまで多くの者が基礎資格校としている国立大学の医療技術短期大学部の多くは四年制の学部へ改組されている。こうした状況の変化の中で、機構で取得した「学士」の評価が、どのように展開・推移していくのかについては、改めて分析する必要があるだろう。

なお本機構では全部で26の専攻分野の名称を付した学士の学位を授与しており、しかも専攻分野によって学位取得者の属性、学位取得までの学修履歴はまったくと言ってよいほど異なっている。したがって本稿で提示した分析結果が、機構における学位取得者の全体像を表しているわけではないし、諸変数間の関係も他の専攻分野においては全く異なるかも知れない。この点については再度、断っておきたい。

## 注

<sup>1)</sup> 橋本鉦市・濱中義隆（2000）、濱中義隆（2001）

<sup>2)</sup> 橋本鉦市・森利枝・濱中義隆（1999a）

<sup>3)</sup> 同コース修了者による学位授与申請は、その後もコンスタントに継続しているが、初年度ほど人数は多くないため、平成9年10月期の人数が突出したものと思われる。

<sup>4)</sup> 厚生労働省「病院報告」（平成11年度 上巻第51表）および「医療施設調査」（平成11年度 上巻第9表）より作成した。なお各データは「厚生労働省統計表データベース」（<http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/index.html>）を利用して引用したものである。

<sup>5)</sup> 主な専攻分野における基礎資格該当後の学修の特徴については付表を参照されたい。

<sup>6)</sup> 調査票における質問では、回答者本人の場合についてではなく、「一般に」どのように扱われているかを尋ねる形式になっている。しかし、実際には回答者本人の経験について回答されているようである。

<sup>7)</sup> 厳密に言えば、ある独立変数の水準において、基準となるカテゴリーに対してその他のカテゴリーが選択される確率が対数オッズで示される（baseline category logitと呼ばれる）。つまり独立変数1単位の変化に対する対数オッズの増減、いいかえれば対数オッズ比が推計される。こ

こで対数オッズを逆変換することにより、オッズ比つまり基準となるカテゴリーに対して他のカテゴリーがどれくらい選択されやすくなるかを推定できるのである。

<sup>8)</sup> 「履修パターン調査」の概要および結果については、橋本鉦市・森利枝・濱中義隆（1999b）に詳しく述べられている。

<sup>9)</sup> 他の要因の影響をコントロールしない場合、両者の間には統計的に有意な関連がみられる。

<sup>10)</sup> 短大・高専に設置された認定専攻科の修了見込者の場合、そのほとんどは短大・高専の本科卒業後すぐに専攻科に進学した学生で占められている。つまり、標準的な四年制大学卒業者と実質的にはほぼ同じ属性を有する者であるといつてよい。

## 文献

濱中義隆（2001）「学士学位取得者の現状と意識－1年後・5年後調査の分析結果（2）－」、『学位研究』，第15号，77-94頁

橋本鉦市・濱中義隆（2000）「学士学位取得者の現状と意識－1年後・5年後調査の分析結果－」、『学位研究』，第13号，59-84頁

橋本鉦市・森利枝・濱中義隆（1999a）「学位授与機構における学位取得者の意識と動態－学位取得者のフォローアップ調査を中心に－」、『学位研究』，第11号，109-149頁

橋本鉦市・森利枝・濱中義隆（1999b）「学位授与機構における学位申請者の単位履修パターン－「単位累積加算制度」に関する基礎的分析－」、『学位研究』，第11号，5-39頁

舘 昭（2001）「大学評価・学位授与機構における学位授与関係の調査研究について」、『学位研究』，第15号，143-161頁

付表 「1年後・5年後調査」の基礎集計表（平成13年度実施分）

		対象者数	回答者数
1年後調査	平成11年10月期申請者	1342	553
	平成12年4月期申請者	338	207
5年後調査	平成7年10月期申請者	478	140
	平成8年4月期申請者	176	66
合計		2334	966

※専攻分野は主なもののみを表示した。専攻区分の分類は以下のとおり。

○人文・社会…文学，社会学，教養，学芸，社会科学，法学，政治学，経済学，商学，経営学

○教育…教育学，体育学      ○家政…栄養学，家政学      ○芸術…芸術学

○工学…工学，芸術工学      ○看護…看護学      ○保健衛生…保健衛生学

○その他…理学，薬学，農学，鍼灸学，水産学

#### 基礎資格

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
2年制短期大学卒業	79.4	91.0	98.7	100.0	6.9	.7	-	33.3	32.3
高等専門学校卒業	1.6	1.5	-	-	89.2	-	-	-	21.5
2年制専門学校	-	-	1.3	-	-	-	-	-	.1
3年制短期大学卒業	1.6	-	-	-	-	91.0	86.5	37.5	37.9
3年制専門学校	-	-	-	-	-	8.3	13.5	-	4.9
大学中退（2年以上・62単位以上）	12.7	6.0	-	-	1.7	-	-	-	2.1
大学卒業	3.2	-	-	-	-	-	-	-	.2
大学院への飛び級	1.6	1.5	-	-	2.2	-	-	-	1.0
合計（実数）	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

#### 基礎資格該当後の学修

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
認定専攻科（2年制短大1年制）	19.0	10.4	6.3	1.0	-	-	-	-	2.6
認定専攻科（2年制短大2年制）	49.2	76.1	89.9	96.9	5.6	-	-	-	27.7
認定専攻科（高専2年制）	-	-	-	-	87.9	-	-	-	21.0
認定専攻科（3年制短大1年制）	-	-	-	-	-	48.3	4.2	12.5	8.7
大学の科目等履修生	19.0	7.5	-	1.0	2.6	46.9	81.5	37.5	32.3
大学・大学院の学生	12.7	6.0	3.8	1.0	3.9	4.8	14.3	20.8	7.7
合計（実数）	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問1 申請時職業

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
フルタイムで仕事	22.2	22.4	8.9	2.0	5.2	82.1	90.7	29.2	42.5
パートやアルバイト	12.7	9.0	1.3	7.1	.4	6.9	2.7	16.7	4.6
短大専攻科の学生	33.3	62.7	84.8	89.8	4.8	5.5	2.3	25.0	25.8
高専専攻科の学生	-	-	-	-	85.3	-	-	-	20.4
大学院の学生	1.6	-	1.3	-	1.3	-	-	-	.8
その他の学校の学生	7.9	3.0	1.3	1.0	1.3	-	-	-	1.3
主婦として家事に従事	3.2	1.5	-	-	-	2.8	.4	-	.8
資格試験などの受験準備	6.3	1.5	2.5	-	1.3	.7	.8	8.3	1.6
仕事を探していた	3.2	-	-	-	.4	-	2.3	-	.9
その他	9.5	-	-	-	-	2.1	.8	4.2	1.2
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問2 取得直後の進路

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
取得前と変わらない	33.3	26.9	11.4	3.1	6.1	70.3	82.2	20.8	39.9
転職・再就職した	3.2	4.5	1.3	3.1	3.5	6.9	2.7	8.3	3.7
はじめて就職した	25.4	53.7	72.2	52.0	49.8	5.5	2.3	20.8	30.4
大学院に進学	7.9	9.0	1.3	5.1	32.9	7.6	3.5	25.0	12.3
資格試験などの受験準備	7.9	1.5	6.3	3.1	2.2	7.6	6.2	12.5	5.1
仕事を探していた	14.3	1.5	6.3	18.4	4.3	.7	1.2	4.2	5.0
その他	7.9	3.0	1.3	15.3	1.3	1.4	1.9	8.3	3.6
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問3 現在の就業状況

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
仕事をしている	69.8	89.6	79.7	78.6	65.8	82.8	94.6	45.8	79.9
大学院に在学中	7.9	7.5	1.3	4.1	27.7	7.6	1.9	29.2	10.6
その他の学校に在学中	3.2	1.5	1.3	2.0	2.2	.7	-	-	1.4
主婦として家事に従事	3.2	1.5	3.8	1.0	.9	5.5	1.5	-	2.2
資格試験などの受験準備	6.3	-	1.3	2.0	.9	-	.4	8.3	1.2
仕事を探している	6.3	-	10.1	7.1	2.2	2.1	.4	8.3	3.1
その他	3.2	-	1.3	5.1	.4	1.4	.4	-	1.2
無回答・不明	-	-	1.3	-	-	-	.8	-	.3
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問4B 勤務先の業種

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
建設	2.3	-	1.6	6.5	7.2	-	-	-	2.5
製造	6.8	-	6.3	24.7	50.0	.8	1.6	18.2	14.1
流通・販売、飲食店	9.1	5.0	4.8	18.2	2.0	-	-	-	3.5
金融・保険、不動産	6.8	-	-	1.3	-	-	-	-	.6
運輸・通信・電気・ガス	11.4	1.7	-	1.3	9.9	-	-	-	3.0
情報・ソフトウェア	4.5	1.7	-	5.2	8.6	.8	-	-	2.7
学校、大学、研究所など	11.4	55.0	7.9	9.1	1.3	20.0	14.3	9.1	14.5
病院、診療所など	4.5	5.0	58.7	2.6	.7	50.0	80.8	27.3	39.6
その他のサービス	22.7	20.0	12.7	19.5	9.2	1.7	1.2	-	8.3
公務（学校、病院は除く）	15.9	10.0	4.8	3.9	10.5	24.2	1.2	-	8.7
その他	2.3	-	1.6	3.9	.7	1.7	-	-	1.3
無回答・不明	2.3	1.7	1.6	3.9	-	.8	.8	-	1.2
合計 (実数)	100 (44)	100 (60)	100 (63)	100 (77)	100 (152)	100 (120)	100 (245)	100 (11)	100 (772)

問4C 勤務先の規模

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
29人以下	22.7	66.7	19.0	37.7	9.9	6.7	6.5	36.4	17.4
30～99人	25.0	13.3	30.2	15.6	8.6	13.3	8.2	27.3	13.2
100～499人	6.8	3.3	39.7	23.4	23.7	17.5	30.6	-	23.3
500～999人	9.1	-	1.6	5.2	16.4	15.8	12.7	-	10.9
1000人以上	18.2	5.0	6.3	10.4	32.9	17.5	18.0	36.4	18.4
官公庁、地方自治体	15.9	5.0	3.2	2.6	7.9	27.5	21.2	-	14.4
無回答・不明	2.3	6.7	-	5.2	.7	1.7	2.9	-	2.5
合計 (実数)	100 (44)	100 (60)	100 (63)	100 (77)	100 (152)	100 (120)	100 (245)	100 (11)	100 (772)

問4D 勤務の形態

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
一般従業者	72.7	70.0	85.7	51.9	94.7	91.7	92.7	72.7	85.1
経営者・役員	2.3	-	-	1.3	.7	-	.4	-	.5
臨時雇用、パート、アルバイト	15.9	25.0	14.3	35.1	2.6	6.7	5.3	27.3	11.1
自営業主	4.5	1.7	-	3.9	1.3	-	-	-	1.0
家族従業者	-	-	-	1.3	.7	-	-	-	.3
その他	2.3	1.7	-	3.9	-	.8	-	-	.8
無回答・不明	2.3	1.7	-	2.6	-	.8	1.6	-	1.2
合計 (実数)	100 (44)	100 (60)	100 (63)	100 (77)	100 (152)	100 (120)	100 (245)	100 (11)	100 (772)

問4E 主な仕事（職種）

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
事務職	47.7	6.7	4.8	15.6	5.9	-	.8	9.1	6.7
営業・販売職	9.1	3.3	1.6	13.0	1.3	-	-	-	2.5
技術職	4.5	1.7	3.2	13.0	64.5	1.7	4.1	54.5	17.0
教員，保母	4.5	71.7	3.2	2.6	1.3	15.0	6.5	-	11.0
保健・医療職	4.5	3.3	38.1	1.3	.7	80.0	82.4	18.2	42.7
研究職	-	-	-	2.6	5.3	1.7	4.9	-	3.1
美術・音楽関係の職業	-	-	-	31.2	2.0	-	-	-	3.5
その他の専門職	20.5	5.0	36.5	5.2	.7	-	-	-	5.3
サービス職	2.3	1.7	6.3	6.5	3.3	-	-	-	2.1
運輸・通信・保安の職業	2.3	1.7	-	-	2.6	-	-	-	.8
製造・技能職	-	-	4.8	7.8	11.2	-	-	-	3.4
その他	2.3	5.0		1.3	-	.8	.4	9.1	1.0
無回答・不明	2.3	-	1.6	-	1.3	.8	.8	-	.9
合計 (実数)	100 (44)	100 (60)	100 (63)	100 (77)	100 (152)	100 (120)	100 (245)	100 (11)	100 (772)

問5A 採用時の条件

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
大卒以上	-	-	-	1.3	.7	1.7	-	-	.5
大卒と同等	43.2	41.7	57.1	24.7	77.0	40.8	22.0	72.7	42.4
大卒と短大・高専卒の中間	4.5	8.3	12.7	9.1	3.9	15.0	7.3	-	8.3
短大・高専卒と同等	15.9	30.0	12.7	23.4	4.6	22.5	36.3	-	22.5
比較対象がいない	27.3	18.3	15.9	39.0	11.8	12.5	30.6	18.2	22.4
無回答・不明	9.1	1.7	1.6	2.6	2.0	7.5	3.7	9.1	3.9
合計 (実数)	100 (44)	100 (60)	100 (63)	100 (77)	100 (152)	100 (120)	100 (245)	100 (11)	100 (772)

問5B 給料

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
大卒以上	-	-	-	1.3	-	2.5	-	-	.5
大卒と同等	40.9	46.7	46.0	24.7	77.6	38.3	16.7	72.7	39.8
大卒と短大・高専卒の中間	6.8	11.7	12.7	7.8	3.3	15.0	6.5	-	8.2
短大・高専卒と同等	18.2	21.7	19.0	22.1	5.3	28.3	46.1	-	26.6
比較対象がいない	25.0	18.3	20.6	41.6	11.2	10.0	26.9	18.2	21.2
無回答・不明	9.1	1.7	1.6	2.6	2.6	5.8	3.7	9.1	3.8
合計 (実数)	100 (44)	100 (60)	100 (63)	100 (77)	100 (152)	100 (120)	100 (245)	100 (11)	100 (772)

問5C 昇進・将来性

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
大卒以上	-	3.3	-	1.3	2.0	2.5	.8	-	1.4
大卒と同等	36.4	33.3	44.4	18.2	67.1	32.5	21.2	36.4	35.6
大卒と短大・高専卒の中間	4.5	6.7	19.0	6.5	4.6	16.7	7.3	-	8.8
短大・高専卒と同等	15.9	23.3	12.7	23.4	6.6	25.8	36.3	9.1	23.1
比較対象がいない	34.1	31.7	22.2	48.1	16.4	17.5	31.0	36.4	27.3
無回答・不明	9.1	1.7	1.6	2.6	3.3	5.0	3.3	18.2	3.8
合計 (実数)	100 (44)	100 (60)	100 (63)	100 (77)	100 (152)	100 (120)	100 (245)	100 (11)	100 (772)

問5D 仕事の内容・責任

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
大卒以上	-	1.7	-	2.6	2.6	2.5	.8	-	1.6
大卒と同等	36.4	35.0	54.0	29.9	69.7	33.3	20.8	54.5	38.5
大卒と短大・高専卒の中間	2.3	10.0	9.5	2.6	2.0	12.5	6.1	-	6.2
短大・高専卒と同等	15.9	23.3	12.7	19.5	6.6	31.7	41.6	-	25.1
比較対象がいない	36.4	28.3	22.2	42.9	16.4	15.0	28.6	36.4	25.5
無回答・不明	9.1	1.7	1.6	2.6	2.6	5.0	2.0	9.1	3.1
合計 (実数)	100 (44)	100 (60)	100 (63)	100 (77)	100 (152)	100 (120)	100 (245)	100 (11)	100 (772)

問6 転職経験

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
仕事に就いていない	20.6	11.9	3.8	10.2	29.9	6.9	2.7	33.3	13.3
転職していない	55.6	68.7	78.5	60.2	60.6	72.4	83.4	37.5	69.6
1回転職した	17.5	13.4	11.4	20.4	7.8	14.5	12.0	20.8	12.8
2回転職した	3.2	1.5	1.3	6.1	.9	4.1	.8	4.2	2.2
3回以上転職した	-	3.0	-	2.0	-	.7	.4	-	.6
無回答・不明	3.2	1.5	5.1	1.0	.9	1.4	.8	4.2	1.6
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問6 転職と学位の関係（学位取得後に転職した者のみ）

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
役に立った	38.5	25.0	30.0	14.3	25.0	53.6	29.4	16.7	30.5
どちらともいえない	46.2	41.7	50.0	35.7	30.0	35.7	38.2	33.3	37.7
役に立たなかった	15.4	25.0	10.0	46.4	35.0	10.7	29.4	50.0	27.8
無回答・不明	-	8.3	10.0	3.6	10.0	-	2.9	-	4.0
合計 (実数)	100 (13)	100 (12)	100 (10)	100 (28)	100 (20)	100 (28)	100 (34)	100 (6)	100 (151)

## 問7 資格の取得

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
取得していない	81.0	79.1	67.1	81.6	81.0	85.5	86.9	79.2	82.0
取得した	14.3	17.9	27.8	16.3	13.0	11.0	9.7	16.7	13.9
無回答・不明	4.8	3.0	5.1	2.0	6.1	3.4	3.5	4.2	4.1
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

## 問8 大学院の在学経験

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
在学したことはない	84.1	86.6	96.2	94.9	63.2	82.8	86.5	54.2	81.1
在学した	3.2	1.5	1.3	1.0	8.2	2.1	2.7	16.7	3.9
在学中	11.1	10.4	1.3	4.1	26.8	13.1	10.0	29.2	13.8
無回答・不明	1.6	1.5	1.3	-	1.7	2.1	.8	-	1.2
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

## 問8A 入学時期

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
機構の学士取得後	88.9	100.0	50.0	100.0	86.4	90.9	97.0	72.7	88.9
機構の学士取得前	11.1	-	50.0	-	9.9	4.5	3.0	27.3	8.8
無回答・不明	-	-	-	-	3.7	4.5	-	-	2.3
合計 (実数)	100 (9)	100 (8)	100 (2)	100 (5)	100 (81)	100 (22)	100 (33)	100 (11)	100 (171)

## 問8B 課程

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
修士課程	77.8	75.0	100.0	100.0	96.3	90.9	75.8	72.7	88.3
博士課程	22.2	25.0	-	-	3.7	4.5	21.2	27.3	10.5
海外の大学院	-	-	-	-	-	4.5	3.0	-	1.2
合計 (実数)	100 (9)	100 (8)	100 (2)	100 (5)	100 (81)	100 (22)	100 (33)	100 (11)	100 (171)

## 問8C 設置形態

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
昼間・昼間主コース	77.8	87.5	100.0	80.0	97.5	81.8	60.6	90.9	86.0
夜間・夜間主コース	22.2	12.5	-	20.0	-	9.1	30.3	-	9.4
通信制	-	-	-	-	1.2	-	6.1	-	1.8
無回答・不明	-	-	-	-	1.2	9.1	3.0	9.1	2.9
合計 (実数)	100 (9)	100 (8)	100 (2)	100 (5)	100 (81)	100 (22)	100 (33)	100 (11)	100 (171)



# 就学の形態

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
仕事をしながら	44.4	37.5	50.0	20.0	1.2	45.5	81.8	9.1	28.1
仕事を辞めて、中断して	-	-	50.0	-	3.7	45.5	18.2	27.3	13.5
仕事に就く前に	22.2	50.0	-	60.0	92.6	4.5	-	-	53.8
無回答・不明	33.3	12.5	-	20.0	2.5	4.5	-	-	4.7
合計 (実数)	100 (9)	100 (8)	100 (2)	100 (5)	100 (81)	100 (22)	100 (33)	100 (11)	100 (171)

# 就学継続の意志

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
修士課程まで	33.3	62.5	-	60.0	66.7	40.9	15.2	27.3	48.0
博士課程まで	44.4	37.5	50.0	20.0	8.6	40.9	57.6	36.4	28.1
無回答・不明	22.2	-	50.0	20.0	24.7	18.2	27.3	36.4	24.0
合計 (実数)	100 (9)	100 (8)	100 (2)	100 (5)	100 (81)	100 (22)	100 (33)	100 (11)	100 (171)

# 問10A 自分自身への自信がついた

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
おおいに当てはまる	50.8	44.8	58.2	33.7	21.2	35.9	30.9	25.0	34.0
少し当てはまる	39.7	40.3	35.4	53.1	43.7	56.6	58.3	33.3	49.1
あまり当てはまらない	6.3	11.9	3.8	8.2	21.6	5.5	8.1	29.2	11.3
まったく当てはまらない	1.6	3.0	1.3	4.1	11.7	.7	1.9	8.3	4.5
無回答・不明	1.6	-	1.3	1.0	1.7	1.4	.8	4.2	1.2
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

# 問10B まわりの人から、「大卒」として扱われるようになった

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
おおいに当てはまる	19.0	26.9	13.9	17.3	30.3	5.5	4.6	12.5	15.6
少し当てはまる	28.6	29.9	46.8	20.4	36.4	22.1	21.6	12.5	28.0
あまり当てはまらない	33.3	23.9	25.3	33.7	22.9	42.1	37.5	37.5	32.1
まったく当てはまらない	15.9	19.4	11.4	26.5	9.5	29.0	34.7	33.3	22.8
無回答・不明	3.2	-	2.5	2.0	.9	1.4	1.5	4.2	1.6
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

# 問10C その後の人生の励みになった

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
おおいに当てはまる	36.5	29.9	38.0	20.4	15.6	26.2	23.2	25.0	24.1
少し当てはまる	42.9	47.8	50.6	38.8	39.8	50.3	55.2	37.5	47.0
あまり当てはまらない	14.3	20.9	10.1	29.6	30.3	19.3	17.8	12.5	21.4
まったく当てはまらない	3.2	1.5	1.3	9.2	12.6	2.8	3.1	20.8	6.1
無回答・不明	3.2	-	-	2.0	1.7	1.4	.8	4.2	1.3
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問10D 幅広い教養が得られた

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
おおいに当てはまる	31.7	41.8	34.2	32.7	16.0	26.9	28.6	25.0	27.2
少し当てはまる	50.8	46.3	53.2	42.9	46.8	51.7	56.4	41.7	50.3
あまり当てはまらない	9.5	11.9	8.9	18.4	32.0	17.2	12.0	16.7	17.9
まったく当てはまらない	4.8	-	2.5	4.1	3.5	2.8	2.3	12.5	3.1
無回答・不明	3.2	-	1.3	2.0	1.7	1.4	.8	4.2	1.4
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問10E 仕事に必要な専門的知識が得られた

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
おおいに当てはまる	12.7	28.4	22.8	15.3	7.4	18.6	16.6	20.8	15.7
少し当てはまる	19.0	53.7	57.0	19.4	30.7	46.2	49.0	33.3	39.9
あまり当てはまらない	39.7	11.9	13.9	38.8	46.8	31.0	29.7	29.2	33.0
まったく当てはまらない	25.4	6.0	5.1	23.5	13.4	2.8	3.9	12.5	9.8
無回答・不明	3.2	-	1.3	3.1	1.7	1.4	.8	4.2	1.6
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問10F 仕事上での自信がついた

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
おおいに当てはまる	14.3	17.9	20.3	15.3	8.2	11.7	14.7	29.2	13.8
少し当てはまる	27.0	40.3	48.1	18.4	28.6	45.5	46.7	12.5	36.9
あまり当てはまらない	36.5	28.4	25.3	45.9	46.8	36.6	31.7	33.3	37.1
まったく当てはまらない	19.0	13.4	3.8	16.3	14.7	4.8	6.2	20.8	10.6
無回答・不明	3.2	-	2.5	4.1	1.7	1.4	.8	4.2	1.8
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問10G 基礎的知識・学力が身についた

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
おおいに当てはまる	23.8	19.4	26.6	19.4	13.4	10.3	17.4	25.0	17.1
少し当てはまる	47.6	56.7	54.4	46.9	51.1	57.2	57.9	45.8	53.7
あまり当てはまらない	17.5	19.4	16.5	27.6	29.4	28.3	22.0	8.3	24.0
まったく当てはまらない	7.9	4.5	1.3	4.1	3.9	2.8	1.5	12.5	3.4
無回答・不明	3.2	-	1.3	2.0	2.2	1.4	1.2	8.3	1.8
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問10H さらに学習を深めたくなった

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
おおいに当てはまる	42.9	31.3	21.5	17.3	19.5	32.4	39.4	45.8	29.7
少し当てはまる	39.7	46.3	54.4	43.9	37.7	44.1	44.8	29.2	43.1
あまり当てはまらない	9.5	19.4	15.2	27.6	35.1	21.4	13.1	8.3	21.3
まったく当てはまらない	4.8	3.0	7.6	9.2	6.1	.7	1.5	12.5	4.3
無回答・不明	3.2	-	1.3	2.0	1.7	1.4	1.2	4.2	1.6
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問10I 自主的な学習の習慣がついた

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
おおいに当てはまる	27.0	25.4	17.7	20.4	10.4	18.6	12.4	20.8	16.1
少し当てはまる	41.3	37.3	45.6	32.7	32.5	41.4	52.1	16.7	40.7
あまり当てはまらない	23.8	29.9	26.6	33.7	45.9	36.6	32.0	37.5	35.2
まったく当てはまらない	4.8	7.5	8.9	11.2	9.5	2.1	2.3	20.8	6.4
無回答・不明	3.2	-	1.3	2.0	1.7	1.4	1.2	4.2	1.6
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問11 学位取得に対する満足度

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
1点	1.6	-	-	2.0	.4	-	.8	-	.6
2点	-	-	-	3.1	.9	-	.4	-	.6
3点	1.6	1.5	-	7.1	3.9	2.8	2.3	4.2	3.0
4点	-	-	-	5.1	2.6	2.8	3.5	4.2	2.6
5点	6.3	3.0	3.8	9.2	9.1	4.1	6.2	16.7	6.7
6点	3.2	10.4	6.3	11.2	7.8	15.2	14.3	12.5	10.9
7点	17.5	16.4	13.9	6.1	16.0	16.6	20.1	16.7	16.1
8点	14.3	17.9	22.8	17.3	24.2	26.2	22.8	8.3	21.8
9点	11.1	13.4	7.6	10.2	10.4	6.9	8.9	8.3	9.4
10点	44.4	37.3	45.6	27.6	22.9	24.8	20.5	29.2	27.4
無回答・不明	-	-	-	1.0	1.7	.7	.4	-	.7
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

問12 5年後の就業状況の予測

	専攻分野								合計
	人文・社会	教育	家政	芸術	工学	看護	保健衛生	その他	
現在の会社で、フルタイムで仕事	33.3	41.8	36.7	20.4	46.8	40.0	71.4	20.8	47.0
転職して、フルタイムで仕事	12.7	16.4	31.6	20.4	13.4	24.8	13.1	16.7	17.5
就職して、フルタイムで仕事	17.5	19.4	13.9	13.3	29.4	12.4	3.1	20.8	15.2
独立起業している、家業を継いでいる	3.2	-	-	13.3	3.0	2.1	1.9	8.3	3.3
パートやアルバイト	7.9	3.0	6.3	12.2	1.7	6.9	4.2	4.2	5.2
学校に通っている	9.5	3.0	1.3	1.0	.9	4.8	2.3	8.3	2.8
主婦として家事に従事	6.3	10.4	7.6	11.2	.9	2.1	1.5	8.3	4.0
その他	6.3	3.0	2.5	6.1	2.6	5.5	2.3	4.2	3.6
無回答・不明	3.2	3.0	-	2.0	1.3	1.4	-	-	1.3
合計 (実数)	100 (63)	100 (67)	100 (79)	100 (98)	100 (231)	100 (145)	100 (259)	100 (24)	100 (966)

## [ABSTRACT]

### The Result of Follow-up Surveys to the Earners of a Bachelor Degree of NIAD-UE (Ⅲ) : Focusing on the degree earners majoring in “Health Science”

HAMANAKA Yoshitaka\*

The Faculty of Assessment and Research for Degrees of National Institution for Academic Degrees and University Evaluation (NIAD-UE) have conducted continual follow-up surveys to NIAD-UE degree earners since 1999. The main purposes of our survey are not only to examine the current status and opinion of the NIAD-UE degree earners but also to clarify the social evaluation for NIAD-UE degree holders, that is, to examine whether they are treated as equivalent to college graduates who earned a bachelor's degree through university matriculation, especially in their working places.

This paper is the third report on the “Follow-up Survey to degree earners after 1 year and 5 years”. Since the former two reports have already made it clear that the situation of respondents is completely varied with each disciplinary field, the analysis within one disciplinary field is needed for more detailed consideration. Therefore, this paper focuses on the field of Health Science. The result of the other field is also attached as an appendix.

The main findings of this paper are as follows.

First, the treatment as degree-holders equivalent to college graduate is significantly affected by their current occupation. In detail, a researcher or teaching profession are treated as college graduate more frequently than those who engage in medical related occupation, though 85 percents of NIAD-UE degree earners in the field of Health Science are engaged in medical related occupation. Second, their acceptance of achievement acquired from the learning process to get degrees depends on the kind of the schools they learned to earn college credits. But our applicants, in fact, cannot choose courses according to their own interests, because only few universities offer programs they can take as non-matriculated credit-based students. I concluded that it is desirable for the further development of our system to improve the above situation.

---

\* Associate Professor, Faculty for the Assessment and Research of Degrees, National Institution for Academic Degrees and University Evaluation